

■離島へ転校したらホストファミリーがドスケベで困る ボイスドラマ 灯&鼓編

//タイトルコール

灯「離島へ転校したらホストファミリーがドスケベで困る」

鼓「ボイスドラマ 灯&鼓編」

//窓外の風の音

//教室のドア(スライド)開ける音

灯「あ～、やっぱり宿題ここに忘れてた。てへっ」

鼓「あ、灯ちゃん、早く行こうよ。今夜は台風も近づいてるし」

灯「大丈夫よ。暴風圏内に入るのは明日だって話だし。……あ、鼓ってば怖いんだ？」

鼓「こ、怖くなんか……でも、警備員さんに見つかったら、恵さんにも迷惑がかかったちゃうし……」

灯「ふーん、恵に迷惑か……。ねえ、恵？ 私たちとこうして夜の学校にいるの見つかったら、迷惑？」

鼓「灯ちゃん、やめなよ。恵さん困ってるよ」

灯「ねえ恵。女の子二人と夜中にこんなところにいて……ふふ、ムラムラしてこない？」

//※ここから耳元囁き&耳舐めパート

//灯の声、急に耳元に接近（片方の耳から囁きボイス）

灯「するよね？ ほらこうしてあげると……ふう（息吹きかけ）」

鼓「あ、灯ちゃん！？ ダメだよ、早く出ないと……！」

灯「ふふ、大丈夫だよ、恵？ だって恵のココは……ほら、行きたくないって言っ

てる……♪」

灯「あーあ、どんどんおっきくなってる。このままじゃ、お外には出れませーん。ふふふ」

灯「学校からは出れなくても……ズボンからは出してあげますからね……っと」

灯「っ！ も、もうこんなに……いくらなんでも早すぎでしょ！ はあ、すごい……ビクビクしてる……」

灯「ふふ、手でされるの、気持ちいいでしょ？ でも、今日はそれだけじゃなくってえ……」

灯「んれろ……ちゅ、ちゅうっ……耳をこうされるの、好きでしょ？ わかってるんだから。恵の弱いところくらい」

//ここから鼓も反対側の耳で囁きボイス

//以下、このパートは片方から灯が責め、もう片方から鼓が甘やかしという構成

鼓「お耳が弱いって本当ですか？ んれろお……」

灯「鼓？ なぁに、早く帰りたいんじゃないの？ ちゅ、ちゅ」

鼓「はあむ……灯ちゃん、ずるい……私と恵さんは、灯ちゃんの忘れ物を取りに来るのに、付き合ってたんですよ？」

鼓「それなのに……灯ちゃんが恵さんを独り占めなんて……ふあ、はああ……私にもご褒美、欲しいです……じゅるるっ」

灯「あは、ごめんごめん。じゃあそっち側は任せるからさ。こっちと……ちゅっ、それにココは私が……シコシコって……」

鼓「んむっ？ 恵さん、イヤ……ですか？ ごめんなさい……」

灯「違うって。いまのはね、ちんちんの裏すじを撫でたの。ふふ、恵ったら身体ビクビクさせちゃって、わかりやすい」

鼓「本当ですか？ 本当に恵さん、こうされるのイヤじゃないですか？ んれろれろお」

灯「イヤなわけないよね？ 恵ってばちんちん左右にフリフリさせて喜んじやって。ふふ、犬が尻尾振ってるみたい。かーわいいっ♪」

鼓「灯ちゃんってば、恵さんに失礼だよ。ねえ、恵さん？ はあ……こんなに汗かいて……シャツがべっとり……」

鼓「脇腹まで汗だく……ん？ くすぐったい、ですか？ ココ……あむ、弱いんですか……？」

灯「あーあ、ちんちんだけじゃなくて、今度は全身がビクビクしちゃってる。恵の弱虫……ふうう、ちゅばっ」

灯「恵、いま自分がどんなカッコしてるかわかる？ ふふふ、すごくだらしないよ……女の子二人に挟まれて……股開いてガクガクさせて……」

鼓「ふあむ、可愛いですよ、恵さん……あん、この胸板、男の子って感じがします……たくましくて、素敵……」

灯「ほらっ、ちんちんこっち！ ブラブラさせないの！ あんっ、こんなに硬くさせて……生意気ちんちんめえ……んちゅう、ちゅぶ、ちゅ」

鼓「はあ、はあ……ああ、恵さんが興奮してるの、わかります……んれろお……あん、この硬いの……乳首、ですね……」

灯「生意気ちんちん、おっきい♪ 手の中におさまらないくらい……ちゅ、ちゅっ、まだ大きくなる……信じられない……」

鼓「男の人も、んむう、感じると乳首が硬くなるって……あれ、本当だったんですね、はむ、はむ……クリクリ……ああん、クリクリ……」

灯「ちんちんと乳首いじられて、耳をペロペロされて……ふふ、アンアンよがっちゃって、なさけな一い♪ あ、ちんちんの先からも涙が出てきたよ？」

鼓「はあん、恵さん……感じてくれてるんですね。乳首がビンビンになってるから、わかります……♪ ふわ、あはあ……」

灯「ふふ、泣き虫ちんちんのおかげで、んっ、シコシコしやすくなった……聞こえる？  
じゅるっ、じゅるるって、すごくいやらしい音してる……」

鼓「あっ、身体ひねらないでください……れろ、せっかく感じる場所、わかってきた  
んですから……ここ、ですよね？ 乳首のまわりを、円を描くようにこう……ツツツ  
って……」

鼓「ほら、逃げないでください……んちゅうう、ず、ずず……んはあ……耳たぶも  
美味しそう……あむ、む、むぶぶ」

灯「あはっ、恵が鼓に食べられそうになってる♪ ほおら、こっちも逃がさない……  
ずじゅる、ちゅうう……ちんちんもそっち行かないっ！ ほら、ぎゅうっ……」

灯「ひゃっ！？ もう、おどかさないでよ。もうイツちゃったかと思った……あは、  
でもこんなに熱い先走り汁、初めて♪」

鼓「先走り……ごくっ。あの苦くて青臭い……恵さんのおちんちんから出る、お汁……  
ああん、思い出しますう……れろれろお」

灯「ふふ、恵のって先走りでもすごく濃いもんね。あんなの味わったら……ちゅぶ、  
忘れられなくなっちゃう……ちゅる、ちゅるる」

鼓「んじゅ、ぶちゅうう……ああん、思い出したらもう……はあ、はあ、私もう、ガ  
マンできません……っ！」

//ここまで耳元囁き&耳舐めパート

//ここからノーマル(?) 音声

灯「わわっ！？ つ、鼓？ いきなり動かないでよ」

鼓「はあ、はあ、あぶっ！ ぶぶ、ああん、恵さんの乳首っ、んれろっ、コリコリし  
て可愛い……」

灯「こら、鼓！ 邪魔！ 恵を独り占めしないでよ～」

鼓「ぶちゅ、ずずず……んはあ、だって……もっともっと恵さんを味わいたくて……んれろお……」

灯「んもう、仕方ないわね。えーっと、じゃあ私は……あ、いいものみつけ♪ よいしょ……んあむっ」

鼓「ふう、はあ……灯ちゃん？ あん、ずるい、また……恵さんの一番美味しいところ、独り占めして……」

灯「んぷ、ぷはっ、独り占めしたのはそっちでしょ？ 私はただ、んれろ、恵のちんちんから出る涙を拭いてあげてるだけ♪ んぷっ」

灯「んっ、んっ、んぶふっ……ふうはあ……ぺろぺろっ、んちゅうううっ」

鼓「もう、灯ちゃんったら……ふふ、じゃあ私も……れろっ、ちゅちゅっ、ふはあ」

鼓「恵さんの乳首、ピンク色で綺麗です……ちゅぽ、乳首のまわりも……んれろ、張りがあって……あん、女の子みたい……うらやましい……」

灯「恵のちんちん、んぶっ、はあはあ、おっきくて……はむう、あぶっ！ 口の中におさまらにゃい……んむむ……」

灯「もうっ、ちんちんばかりごっついんだから……！ んちゅっ、少しは……んれろ、しゃぶる身にもなってよね……」

鼓「ふふ、灯ちゃんってば無茶言って……恵さん、ほら、力抜いてください。私たちに全部まかせて……ね？」

鼓「れろれろっ、どう、ですか？ 乳首とおちんちんを、むちゅっ、ちゅうっ、同時に責められる気持ち……」

灯「気持ちいいにきまっへるじゃにゃい……んぶ、亀さんをこんなに膨らまへて……んあ、もう、口からまた出てく……！」

鼓「乳首、震えてます……ちゅっ、こっちの乳首も……ちゅううっ！」

灯「ちょっ！ 恵ってば大きな声出さないでっ！ 警備員さんに気づかれちゃうでしょっ！」

鼓「あ、ごめんなさい、私がいきなり強く吸ったから……」

灯「し——っ！ 二人とも静かにして！ 足音がするっ！」

//近づく足音「コツ、コツ……」（フェードイン&アウト）

鼓「……………ごくり」

灯「……ひっ！？ け、恵？ ちんちん動かさないでよ！」

鼓「恵さん……ん、れろれろ……ちゅっ……」

灯「ちょっ！？ 鼓もなにしてるの？」

鼓「だって……はあん、じっとしてられない……恵さんの身体が目の前にあるのに……ガマンなんてできません……むちゅっ」

灯「なに言ってるの！？ ちょっ、やめっ、ちんちんが暴れるっ……！」

鼓「灯ちゃんも……ちゅるっ、静かにしないと、この姿、見られちゃうよ？」

灯「ひっ！ そ、それは……困る……ちんちんしゃぶってる姿なんて見られたら……ううっ」

鼓「元はと言えば、灯ちゃんが学校に忘れ物なんでするから……ちゅ、ねえ恵さん？」

灯「うう……鼓の意地悪……え？ け、恵？ なに、ちんちん突きつけたりして……この状況で舐めろってこと……？」

灯「恵まで調子に乗って……！ もうっ、いいわよ！ 毒を喰らわば皿まで……ちん

ちんしゃぶるなら根元まで……んあむうっ」

灯「ぶ、ぶふう、んじゅ、ずずず……ぶぶっ」

鼓「ああ、美味しそうな音させて……私も……むぶっ、ぶぶっ……はああ、恵さんの脇腹、鳥肌立ってます」

鼓「ふふ、ここをさわさわすると……あん、動かないでください。ちゅうっ、ちゅちゅっ」

灯「ずぞぞっ、んむう……ひうっ、毛が鼻のあにやに……くしゅぐったひ……」

鼓「腋の下も……んれろ、れろお……ふはあ、恵さんの匂いでクラクラしちゃいます……」

灯「むばっ、はあはあ……この部屋、空気がこもっててすごいい……エッチな匂いでいっぱいだよ……」

鼓「ちゅばっ、ふうふう……この匂い、絶対廊下まで漏れてます。警備員さん、廊下に来ただけで、絶対に気づいちゃいます……」

灯「怖いこと言わないでよ……ああん、なんだかゾクゾクしてきちゃった……」

鼓「私も……ああ、私たちも絶対エッチな匂いさせてます……」

灯「あは♪ 恵の玉袋もずっしり重くなってる。ふふ、もうここ、精子でいっぱいなんでしょ？ ほおら、さすさす……♪」

鼓「ああ、恵さんの匂いがムツと濃くなって……準備、できたんですね？ 射精する準備が……♪」

灯「ああん、どうするの、恵？ 警備員さんに射精する瞬間を見られたら……？」

鼓「大丈夫。私たちが全部受け止めてあげますから……♪」

灯「あはっ、恵のちんちん、ブルブルってなった♪ ほおら、いくよ。んずずっ、じ

ゆるるっ！」

鼓「恵さんの脇の下……甘あい♪　ちゆるるっ、んれろお……ずずずっ！」

灯「んっ、んっ、んぶっ、ろお？　もうふぐ？　もうふぐいきほうでひょ？　ぶぶぶ、  
んぶ——っ！！」

鼓「ああ、警備員さんが来るかもしれないのに……こんなことしてるなんて、ふはあ、  
ちゅっ、ちゅずる——っ！！」

灯「んぶっ！？　くひのなかで……あびやれてりゅっ！　んんん、だひてっ！　いっ  
ぴやいだひてっ！！」

//射精1「びゅ————っ」

灯「んぶううううううううっ！！　ん、んぐっ、んん……」

鼓「灯ちゃん、がんばって。こぼさないで」

灯「んぶっ、わ、わあってりゅ……んぐっ、ごきゅっ、ごくっ、ごくん……」

鼓「ああ、恵さんの胸がトクントクンっていったる……ちゅ、ちゅっ」

灯「ふはあ、ふう、はあ……けほっ、うう……相変わらず濃いんだから……喉に絡み  
ついて……けほっ、けほっ」

鼓「警備員さんには気づかれなかったみたいです。よかった……」

灯「私が全部受け止めてあげたからよ……ん？　ちょっと、なにこれ？　恵の胸のあ  
たりがアザだらけなんですけど？」

鼓「あ、それは……私がきつく吸いすぎちゃって……」

灯「これ全部鼓のつけたキスマークなの！？　もうっ、どんだけ吸いついてるのよ！」

鼓「だって……灯ちゃんは恵さんのアレを飲んだんだし……」



鼓「……なんだかずるい。私も恵さんのが欲しい。んしょ……っ」

//机を引き摺る音「ガタガタッ」

灯「ちょ、ちょっと鼓？ 机の上なんかに座って、なにするつもり？」

鼓「はああ……来て、恵さん♪」

灯「そんなところでM字開脚しちゃって……だいたい恵はいま出したばかりで……  
って、ええっ!？」

灯「け、恵……？ どうしてそんなにおっきく……あんなに濃い出したのに……」

鼓「ふふ、わかります。目の前で女の子のココ、くぱあってされたら……男の子なら  
誰だってそうなっちゃいますよね♪」

鼓「さ、恵さん。遠慮せずにどうぞ……♪」

灯「ずるい……私だっておまんこに入れてほしいのに……」

鼓「んっ、んああっ、来ましたあっ♪ 恵さんのが、私を広げてます……っ！」

鼓「す、すごっ……入り口、どんどん広がってく……ああ、どうしよう、恵さんの太  
さにされちゃう……っ」

鼓「あ、ああっ、入り口でっ、出し入れされたら……ああっ、カリ首のところで擦れて  
っ……ああん、私の入り口が引っかかってますうっ♪」

灯「すごい……恵のぶっといのが、鼓のおまんこを出入りしてる……あんなのが私の  
中にも入ってたんだ……」

鼓「は、はあん、恵さんっ、焦らさないでえ……奥まで、早く奥までください……恵  
さんを子宮で感じたいんです……」

鼓「んぐっ！ ん、んんっ、ふうう……来て、ますっ……恵さんのがどンドン……私

を広げて……ますうっ……」

鼓「ああ、届きます、もうすぐ私の奥まで、子宮まで……あああん！ もっと勢いつけてくださいっ！」

鼓「あ、あ、あっ！ 叩いてますっ、恵さんの先っぽが、私の奥を……ああ、もっと、もっと奥まで、ぶつけるみたいにしてくださいっ！ んんんっ！」

灯「つ、鼓ってばやりすぎっ！ そんな恵にしがみつくみたいにして……！」

鼓「だって、だってだって！ このままじゃどこか行っちゃいそうで……ああん、飛んでいきそうなんですう！」

鼓「おちんちん気持ちよくて、ズンズンって子宮を叩かれるの気持ちよくって……！ 頭が真っ白になっちゃいそうなんです……！」

鼓「お願い、恵さん……このまま真っ白にしてください……私を中から、真っ白に染めてください……」

鼓「あ、あううっ！ 恵さん、激しっ……！ ああ、恵さんのおちんちんが膨らんでくの、わかりますっ！」

鼓「出してくださいっ、一滴残らず受け止めますからっ！ 子宮で、全部受け止めますからあっ！」

鼓「ああ、おちんちんの中でなにか動いてますっ！ ドクドクって流れ込んできてますっ！」

鼓「あ、あ、来るっ！ 来ますっ！ 恵さんの精液、子種汁っ、あああ！ あ————っ！！」

//射精1「びゅ————っ」

鼓「ん、んん——っ！！ あ、熱いっ！ 熱いの子宮に、私の中に来てますっ！ どんどん中に……ああ、入ってきてますううううううっ！！」

灯「ごくり……わかる……見てるだけで、どれだけすごいのが出てるか。だって……」

//射精2「ぴゅるっ　ぴゅるっ　ぴゅるっ」

鼓「あ——っ、あ——っ！　しゅごっ、しゅごいいい……っ！　子宮が灼かれてますううう……！」

灯「鼓の顔、あんなにいやらしく蕩けて……ごくっ、きっとすごく濃くて熱いのが、中に……ああ……」

//射精3「ぴゅ…　ぴゅ…」

鼓「あ、ああ……はあ、はあ……くふう……恵さん、一滴も残さず出してくださいね……♪」

灯「鼓、ねえ鼓ってば」

鼓「あ……う、うん。どうしたの、灯ちゃん？」

灯「お願い、早く恵を譲って……もう私……ガマンできないの……」

鼓「うふふ、灯ちゃんってば、腰をそんなにモジモジさせて……待っててね。恵さん、足放しますからね……んしょ」

//机動く音「ガタン」

鼓「ああん、恵さんのがこぼれちゃう……やだ、もったいない……」

灯「け、恵っ、早く早くうっ！　こっち来て！　そこに横になって！」

//押し倒す音「ドサッ」

灯「はあ、はあ……もうちんちん勃起させてる。ホントに節操ないんだから……」

灯「い、行くわよ……ん、んんっ！　あ、ダメ、滑っちゃう……ああん、ちんちんがどっかいつちゃう……」

鼓「灯ちゃんのアそこ、グシヨ濡れ……」

灯「だって、ずっと欲しかったんだもん！ ああ、なのになんで……？ もうっ、恵もちんちんの狙い、ちゃんと定めてっ！」

灯「根元をぐっと押さえて……そ、それからアそこに近づけ、てえ……あ、ああ、っ！」

灯「っ、はい、って……く、るううう……んんっ、おっきいの入ってきたあっ！ あ、あああん！！」

灯「すごっ、いいっ！ やっぱ恵の、ぶっとくて硬くて……ああん、素敵いいっ！ 私のおまんこ、恵専用になってるっ、恵の形になっちゃってるよおっ！」

灯「はあっ、はあっ、はあああっ……動く、からね……あはっ♪ 恵のちんちんで、私の中をゴリゴリって……擦っちゃうんだか……らああああああああっ！」

灯「ひっ、ひっ、ひあああっ！ すごっ、すごいいっ、やっぱり恵のイイっ！ 腰っ、上げてから……落とすとっ、ああんっ♪ 削れちゃうっ、私の中削れちゃうっ！」

鼓「わあ……灯ちゃんのアそこから、愛液が溢みたいにじゅるじゅる垂れてる……」

灯「あっ、ああっ、恥ずかしい音してるっ♪ 恵のちんちんと私のおまんこが、ああん、エッチな音楽奏でてるっ♪」

灯「恵も気持ちいい？ はあ、はあ、どうするのがいいの？ ああん、こう？ こうやって……腰をひねって……ひあああん！」

灯「いいっ♪ いまのいいっ♪ 恵の亀さんが私の中をグリってしたあっ♪ ああ、反対側も……くはあっ♪」

灯「私のおまんこで食べちゃうっ、恵のちんちん食べちゃうんだからっ♪ ああ、負けないっ、恵の泣き虫ちんちんなんかに負けないっ♪」

灯「ひうっ！？ け、恵？ ああん、またあっ！ そんなに突き上げないでっ、わ、私の動きと合わせ、て……ひあああっ！」

灯「ああん、もう無理いっ！ 恵のぶっといちんちんでガクガクされちゃうっ、私ごと揺さぶられちゃうのおっ！」

鼓「なんだか、灯ちゃんがおちんちんで、串刺しにされてるみたい……すごい……」

灯「あはあっ、はあっ、根元まで、ああん、がっちりくわえちゃった……♪ ふふ、私のおまんこ、限界まで広がってるう……♪」

灯「ふう、いよいよだね……子宮に、恵の精子もらえる♪ ああん、熱くて濃いので、ようやく中に出してもらえる……ほおら」

灯「わかる？ ねえ恵、わかる？ いまね、子宮口がパクパクしてるよ？ 恵の子種が欲しいって言ってるんだよ？」

灯「私にはわかるの。だって自分の身体だもん……恵の精子が欲しくて欲しくて……ずっと疼いてたんだからあ♪」

灯「出すの？ 出してくれるの？ いま亀さんがプクーって膨らんだのわかったよ？ 出す準備してくれてるんだね？」

灯「早くっ、精子早くっ♪ ああん、いますぐ出してっ、子宮に熱くて濃いので注いでえっ♪」

灯「ああん、腰をガシッて掴まれたあ♪ 恵がガンガン突き上げてくるう♪ あ、あ、あ……ダメっ、もうすぐ来る、すぐそこまで来てるっ！」

灯「ひっ……！ あ、あああああああああっ！！ んあああああああっ！！」

//射精1「びゅー————っ」

灯「ん、んお、おおお……おほお♪ そんなにだされた、らあ……子宮に、入りきらないよお……♪」

//射精2「びゅるっ びゅるっ びゅるっ」

灯「んっ、んっ、んんっ、全部飲み干すんだから……ああん、こぼしたくないいい…  
…」

鼓「灯ちゃん、あんなにあそこをキュって閉じて……ああ、恵さんも気持ちよさそう  
……」

//射精3「ぴゅ… ぴゅ…」

灯「んっ……はあ……はあああ……ああ、すごかったよお……恵いいい……やっぱり  
恵のちんちん、最高……♪」

灯「はあ、はあ、はあ……あはあ……もうだめえ……動けない……」

鼓「灯ちゃん、恵さん。あの……窓の外を見てください」

灯「え？ ……あれ、雨？」

鼓「風も強くなってきてます。そろそろ帰らないと」

灯「ああん、もう少し味わってたかったのに……仕方ないわね」

灯「ほら、恵も早く服着て！ 鼓は……あ、襟のボタン外れてるよ？」

鼓「あ、ご、ごめんなさい。んしょ……これでいいかな？」

灯「うん。さ、本降りになる前に、帰ろ！」

鼓「続きは明日また……ね♪」

灯「ふふ、そうだね。恵、ちゃんと今夜は休んでおいてね♪」

//雨音しばらく聞かせてからフェードアウト